

平成26年度第1回 博物館協議会 抄録

(異動職員の紹介)

(辞令交付)

(新規委員あいさつ)

(市民憲章唱和)

1 あいさつ

(事務局)

(教育長あいさつ)

2 協議事項

(会長とりまわし)

(1) 平成25年度博物館事業実績について

(資料説明：事務局)

(事務局)

協議の前に、今後の協議会の協議内容並びに運営の方針についてご説明いたします。

今回、市の内部から展覧会について、現在との関わりがなく展示からなにも学べるものがないとか、わかってもらおうとする気持ちが伝わらない、市民のほうを向いていないなどという厳しい批判を受けました。文化振興課としては、謙虚にこれを受け止め、直ちに対処にしていかなければいけないと考えています。

今後の展覧会は、集客と設立目的である郷土の歴史を伝えるという相互のバランスがとれた内容のものを考えていかなければならないと思っています。

運営に関しましては、博物館法第8条の規定にのっとって進めていくのが良いだろうと思っています。

〔以下、参考資料「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」についての説明〕。

博物館協議会様には、我々が作った計画を実施し、その中身についてよかった点や改善点のご意見を承るというような方向にシフトしていきたいと思っています。

(事務局)

〔平成25年度博物館事業実績の説明（途中、特別展の結果報告についてそれぞれの担当者が説明）〕

(委員)

レジュメ 5 ページの特別展・企画展の観覧者数ですが、「大交流の時代」は目標値をかなり下回っています。講演会の参加者数を見るとかなり多い。その方たちがもし半分でも展示に入ればもっと多くなったのではないかと思います。考古学の展示はこの博物館では観覧者数はかなり少ない方なので、無料にして、講演会に来た人はもう一回でも見ていってください、ということにするのもいいのかなと思いました。あるいは、300円を安くしてはどうか。例えば100円、200円くらいならどうかと思いました。

(事務局)

確かに数字は目標には届いていないが図録の売り上げはいい。ということは、関心のある人はたくさん来ているが、反面あまり関心のない一般の人は来ていないということだろうと思います。

(委員)

無料の展覧会のほうにはたくさん人が来ているという現状があるなら、無料にしていくことを考えていかなければならないだろうと思っています。

(委員)

ターゲットをどういう方々に向けていくかが重要なことだろうと思っています。講座に関しても非常に大きな目玉があるもの、自分の身近に感じられるものがあれば参加しやすいと思います。

(委員)

博物館は市民に啓発したり楽しいものであったりしなければならないし、その一方で深い専門的な要素も必要だと思います。この2極性を展示に取り入れていく必要があると思います。

図録は専門の人たちには興味深いと思うし、展示物もたくさんあると興味深いと思うこともありますが、例えば小中学生が観たときにはそれでは理解が出来ないと思います。ただ単純に観るよりも聞くほうがわかりやすいと思います。読み聞かせや講談などをもっと取り入れていくのがよいかと思います。体験できるコーナーも増やすなど楽しめるものを導入していただくといいのではと思います。

(委員)

値段に関しては、安くしたり無料にすることはできないか。あるいはオール100円で統一してはどうですか。

(事務局)

基本的には、それなりにお金をかけているのは特別展ということになります。そういったものは、受益者負担ということで観に来たひとにもそれなりの値段を支払っていただくという観点でこの値段に設定にしています。

(委員)

そういう考え方だから人が集まらないのであって、だからこそ安くしないとダメだねという意見が出ているわけです。いっそのこと無料にしたらどうですか、無料がダメならオール10

0円でどうですかということです。

(事務局)

選択肢としてはあると思いますので、一度検討させてください。

(委員)

それから、図録のことは展示がわかりにくいときに図録を購入する人が多いと思います。またお土産感覚で購入する人もいるのではと思います。

展示がわかりにくいことについては、展示の校正や内容をもっと内部でチェックしたらどうですか。

(事務局)

展覧会に合わせたイベントの参加者数をみると、展覧会の入場者数を上回っています。普通は逆になると思いますが、安城市の場合はどういうわけか違う結果になっています。

それは反面、安城市のお客さんはよく来てくれているが、展覧会が有料だったりすると一度か二度観てよしという人が多い、といえます。

(委員)

説明があるとやはりわかると思います。毎日は大変なので、ボランティアなどがやってくれと理解しやすいと思います。

あと、展示を観たら何かおまけでもらえることをやってみてもいいかと思います。人を増やす意味ではいろんなアイデアを出して実施していくのが大切だと思います。

(事務局)

今回、内部からいろんな厳しい意見が出たわけですから、我々としては今できることと、将来できることを分けて、なんとか今月中に報告に行かなければならない中で、とにかく担当者が展示室に出て説明をさせるということをやっています。

また、現在でもやっておりますが、無料の展覧会では無料のパンフレットを配るなどして対応していきたいと思っています。

(委員)

説明も展示全部ではなく、ある程度聞く人の立場を考えて話す必要があると思います。博物館の強みは本物が展示してあることだと思います。なので、解説のときには資料の見方などを教えてあげるといいと思います。例えば、2つあったらどこに共通点があるのかななどを教えてあげるとか、簡単なことを話すと相手も理解しやすいと思います。

厳しい意見があったのは、市長からですか。

(事務局)

市長と副市長からです。

(委員)

私が常々思っているのは、建物を許可して作ったのが市議会議員ならそれを運営する責任があるのも市議会議員だということ。だから展覧会を議員が見学に来て、議員が地区に行ったときに宣伝できるぐらいの目や耳を持っているのが大事だと思います。

トップが自らなにかを働きかけないとダメだと思います。

(事務局)

厳しい意見の発端は内容がわかりづらいというのが原点にあったらしいです。今までは歴史博物館ということでとにかく歴史に特化してやってきたということがありますが、5つの展覧会のうちいくつかは、歴史とはちょっとはなれた楽しい企画を考えて、まずは博物館を知っていただくということを考えていきたいと思います。

(委員)

他の博物館や美術館に行くとき音声ガイドを借りることがありますが、あれは非常にわかりやすいのですが、音声ガイドは非常に高価なものですか。

(事務局)

音声ガイドがある展覧会は、大概是放送局や新聞社が別に動いています。なので、非常に高い値段がつきます。全国の博物館や美術館で音声ガイドの機械を持っているところはほとんどありません。展覧会の際にレンタルで借りてきているケースが多いようです。

(2) 平成26年度博物館事業計画について

〔平成26年度博物館事業計画の説明〕

(事務局)

(2) 体験講座は今のところ計画をしているもので、最終的に変わるかもしれません。(3) 歴博小劇場は、参加型を考えていくなかで、雅楽と十二単は広報で一般のモデルを募集するというので進めております。(5) 刊行物のからくり人形報告書は、市川委員の自宅から出てきたからくり人形の専門的な見地や構造・仕組みなどの考察を今年度中の刊行予定です。

そのほか、下半期の催し物案内につきましては、一般の方は回覧板で回ってくるだけでしたが、予算がつきましたので下半期からは広報に折り込んで全戸配布になりました。今までよりはPRが出来ることと思います。

(委員)

映画会でテレビ番組を見せることについて、これはテレビで見せるのか映画で見せるものですか。

(事務局)

基本的には、DVDでスクリーンを出して大きい画面で見てもらうことになります。

(委員)

下半期の特別展のタイトルはまだ仮称ですか。「油ヶ淵」という一文字を見たときにどういうイメージをもたれるのか気になります。

(事務局)

これはまだ仮称です。みなさんの意見を取り入れながら魅力的なものにしていきたいと思っています。

(委員)

盛りだくさんな内容なので、私はもっと職員の数を増やしてもらえると、わかりやすい展示に出来る機会は増えてくると思うので、本当はもっと増やしてほしいのが本音です。

あと、今まで考古学シンポジウムがあったのですが、下半期はやらない予定ですか。

(事務局)

今のところ考えてはいません。

(委員)

堀内貝塚や縄文時代を取り上げてはどうか。油ヶ淵に関連して東端貝塚をテーマにしてもいいかと思います。

(委員)

体験講座で実際に現地を歩く企画について、たいてい土曜日に開催しているが、平日にもう一回開催することはできませんか。

(岡安課長補佐)

平日に開催するリスクがあります。休日なら集まりやすいことを考えて土日に設定しています。

(委員)

対象を子供まで広げるなら子供たちが休みの方がいいし、平日だと本当に限られた人たちになってしまうので、私は土日の方がいいと思います。

(委員)

油ヶ淵は展覧会に合わせて12月になっていますが、12月は寒くてつらいと思いますが。

(事務局)

日程やターゲットはまだ確定ではありません。とにかく1回現地を取り込んだ体験講座をやるということで企画したものです。

(委員)

PRですが、毎号広報に催し物案内が出るということですか。

(事務局)

催し物案内は年2回の発行ですので、4月と10月の頭にこれからは全戸配布していくということと、毎回の広報には直近のイベントが載ります。

(委員)

ミニチュア展について、もうすぐの開催にも関わらず具体的な案が出てきていないが。

(事務局)

出品一覧や写真もありますが、本日の議題にあがっていませんので資料は用意はしていません。

(事務局)

最初に申しましたように、我々が策定した計画に沿って展示は行っています。これを評価することが我々では難しいので、それを委員の方々にお願いをしているところです。我々が責任をもって展覧会を行った後で、いろいろご意見をいただいて評価していただきたいと思っています。

ます。

(委員)

そういうことだと、今後こういう会議は後退していくわけですか。もう2ヶ月足らずで始まる展覧会の計画ができていないのは見せる見せないの問題ではないと思いますが。

(事務局)

今後は我々が作成した計画を見ていただいて、そのあとに評価をしていただくという協議会の方針にしていだけないかと思っております。

(委員)

そのほか、なにかありますでしょうか。もしなければ今やっております「安城の文化財展」のパンフレットについてですが、分野ごとに分かれていてわかりやすくいいと思います。しかし、指定品の展示数が50点あるうちの少ししか載せられていません。全点掲載されているといいと思いました。今後同じような展覧会を5回続けていくのであれば、5冊あればすべて網羅できるのではと思いました。

(事務局)

特別展については図録をつくる、企画展については無料のパンフレットを配ることを一応の原則にしています。今後の検討課題にしていきたいとは思っています。

(委員)

文化財展に関連して、一つ申し上げます。図録の出品リストに古井遺跡と書いてあります。しかし、古井遺跡というのは遺跡分布地図にはないと思います。指定したときに古井遺跡としたと思いますが、これかもずっとこの名前で行くのか、登録名称は変えることができるのか。古井遺跡で行くならどこかに説明を入れないとよくわからないと思います。古井遺跡は今の遺跡の名称に変えることは出来ないのですか。

(事務局)

少なくとも解説文やパネルでその説明をする必要はあるかと思えます。

(委員)

最初の動員数のことですが、これからはやはり目玉をつくるのとPRにかかっているのだと思います。南吉展に人がたくさん入ったのは市長のおかげとも思います。もう少し他の展覧会も市長にご理解をいただいて、PRに努めていただくような提言をしていくとよいかと思えます。

(事務局)

PRのことでいうと、昨年度に歴史団体のことについて話し合いがあったときに、天野暢保先生が、歴史団体の皆様がもっと展覧会のPRをしてはどうかというお話がありました。例えば、ポスターやチラシを集まっていたいただいた皆様に渡すことはできますか。

(委員)

昔はそうのようにやっていましたが、いつの間にかなくなっていました。

(会長)

他はありますか、なければこれで終わります。

3 その他

(事務局)

次回の予定は9月4日(木)午後2時に予定しています。8月に入ったら案内を送ります。

その他、歴史団体の合同会議を3月末に行いました。展覧会の減免を廃止することについて同意をいただいています。コピー機の利用についても同意をいただいています。これで今後進めていきたいと思っています。

(事務局)

これをもちましてすべての議題が終了しました。閉会の言葉を生涯学習部長から申し上げます。

(事務局)

本日は大変お忙しいなかご出席いただきましてありがとうございました。市長などからの意見がいろいろありました。我々としては真摯に受け止めて、今後は学術的なことはおろそかにしてはいけませんが、一般の方から観ても理解できる関心を持てる展覧会にしていくのが使命かと思っています。そのために今後も委員の方々のご指導をいただけたらと思います。

〔この後、企画展「安城の文化財展」を見学〕